

主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり

～Chromebook の効果的な活用を通して～

1 主題設定の理由

(1) 新しい学習指導要領の考え方から

文部科学省は、急激な社会変化の中で生きていくこれからの子どもたちに求められる資質・能力の三つの柱について図1のようにとらえています。

この三つの柱を育成するために、どのように学ぶか(アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善)が求められています。

これは、本校が目指す授業づくりにつながるものであり、本校の研究は学習指導要領で求められている授業づくりにつながるものであると考えます。

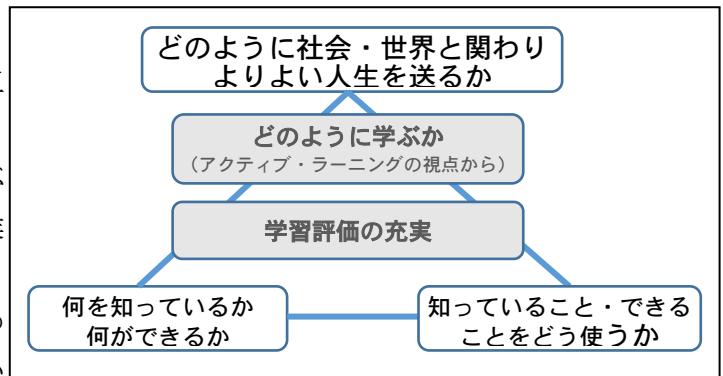


図1 これから育成すべき資質・能力の三つの柱

(2) 本校学校経営の重点から

日吉小学校の令和3年度学校経営の重点の中に次のことが挙げられています。

子どもの主体的・対話的で深い学びを育む安心・安全な教育活動の展開

GIGA スクール構想のもと、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない個別最適化した学びの実現が求められている。教員が教えることにしっかりとかわり、子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を考え、授業の工夫・改善を重ねていく必要がある。

多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない個別最適化した学びやあらわした考えをリアルタイムで全員が共有したり、共有した情報を自分の考えに活かす協働化の学びの実現が求められています。「すぐにでも」、「どの教科でも」、「誰でも」、活かせる1人一台端末、Chromebook を積極敵に取り入れていくことは、本研究で目指す授業づくりと合致します。本校学校経営の重点という点からも本研究は意義のあるものであると考えます。

2 主題の意味

(1) 主体的・対話的で深い学びとは

主体的な学びとは、学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返り次につなげようとする学びです。

対話的な学びとは、子ども同士の協働、教師や地域の人との対話等を通して、自らの考えを広げ深める学びです。

深い学びとは、教科等の特質に応じた「見方や考え方」を働かせて思考・判断・表現し、「見方・考え方」をさらに成長させながら、資質・能力を獲得していく学びです。

こうした学びはこれまでの小学校の授業研究等で目指されてきた授業と異なるものではありません。子ども達がやる気をもって取り組む授業、お互いに協力し合いながら問題を解決していく授業、教師が分かってほしいと願うことがしっかりと子ども達に身についた授業等をこれまでも目指してきたと考えます。本研究は、今までやってきたことを大切にしながら、さらなる授業改善をしていくものです。

また、深い学びで大切にする教科等の特質に応じた「見方や考え方」とは、中央教育審議会の資料をもとにすると、次のようになります。

国語	自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること
社会	社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに注目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること
算数	事象を数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、論理的、統一的・発展的に考えること
理科	自然の事物・現象を、質的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること
生活	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連付け、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること
音楽	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること
図工	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと
家庭	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること
体育	運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること 個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること
特別活動	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること
道徳	様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること
総合	各教科等における『見方・考え方』を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けること
外国語	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりで注目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

以上のようなアクティブ・ラーニングの3つの学びをより具体的に一時間の問題解決過程に当てはめると次のようになります。つまり、目指す一時間の授業を具体的に示すものになります。

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
問題の発見	興味や関心をもち、解決の必要性を考えているか。	感想や考えを出し合っているか。	「ズレ」や「かべ」を感じているか。
解決の見通し	見通しをもっているか。	観点や方法を出し合っているか。	予想したり、観点や方法を考えたりしているか。
個の解決	粘り強く取り組んでいるか。	資料や既習などの情報から考えているか。	情報を関連付けたり、見直したりして、解決策を考えているか。
集団の解決	伝えたり、理解したりしながら話し合っているか。	自他の考えを比較・検討し、考えを広げ深めているか。	自他の考えを関連付けたり、見直したりして解決策を考えているか。
まとめや振り返り	自己の変容を振り返って、次時への意欲を高めているか。	互いの学びを出し合い、共有しているか。	学びの意味・価値を実感しているか。

3 副主題の意味

(1) Chromebook の効果的な活用とは

Chromebook の効果的な活用とは、本単元の目標や本時のねらいを達成するために、一連の学習過程（問題の解決・解決の見通し・個の解決・集団の解決・まとめや振り返り）に Chromebook を位置づけることである。

Chromebook を一連の学習過程に次のような目的で位置づけます。

学習過程		子どもの思考	Chromebook 活用の目的	具体例
導入 ～つくる～	問題の発見	「なぜだろう」 「自分もやってみよう」 「何とかしなければ」 「解決しよう」	問題の焦点化 問題の共有化	・写真や動画の拡大提示 ・隠したり、動きの速さを変化させたりする
	解決の見通し	「…になるだろう」 「…の見方が大切だ」 「…の方法ですれば良い」	視点や方法の確認	・解決に必要な情報や活動方法の拡大提示
展開 ～さぐる～ ～ふかめる～	個の解決	「こうしてやってみよう」 「こうなっているんだな」 「自分では…しよう」	情報の収集・選択 試行錯誤	・資料や操作ソフト ・実験や観察等の調査を映像で記録
	集団の解決	「わかってもらおう」 「考えが似ているな」 「なぜそう考えたのか」 「…と考えたんだな」 「…と言えそうだ」	協調・主張 比較・分類	・一覧提示や比較表示で個の考えを可視化 ・拡大表示と説明で考えの共有化
終末 ～いかす～	まとめと振り返り	「…が分かった」 「…ができるようになった」 「考えが…に変わった」 「だったら…はどうだろう」 「次は…したい」	一般化・体系化 学びの自覚化	・新たな問題の配付 ・活動の記録、個々の感想を一覧提示

導入場面では、子どもが「疑問」「驚き」を感じて問題を把握する「問題の発見」と解決の方向性や方法をつかみ、見通しをもつ「解決の見通し」という二つの段階で考えます。ここでは、問題の焦点化や共有化、問題解決のための観点や方法の確認に向けて、拡大表示機能や動画再生等を使うことが考えられます。

展開場面では、子どもが試行錯誤しながら自分の考えをつくる「個の解決」と他者と考えを出し合って比べることでより良い「考え」を見いだす「集団の解決」という二つの段階で考えます。ここでは、情報の収集・選択や比較・分類のために解決に必要な資料や操作ソフトを活用したり、実験や観察を映像で記録したりすることが考えられます。また、多様な考えからよりよい考えを見いだすために、多様な考えを一覧・比較提示したり、子どもが考えを説明するために考えを拡大表示したりすることが考えられます。

終末段階では、その時間に学んだことを振り返り、満足感や達成感をもったり、新たな課題に取り組んだりする「まとめと振り返り」の段階で考えます。学んだことを一般化したり、体系化するために学習で分かったことをまとめたり、自分の学びを振り返らせるために、活動の記録を一覧にしたりするようにします。

本研究では、「主体的・対話的で深い学び」を目指し、Chromebook を活用していきますが、Chromebook はあくまでもツールであり、それを使うことが目的にならないように留意しなければなりません。そのため、授業全体で使う必要もなく、授業の目的に合わせて授業の一部で使うことももちろん、考えられます。

4 研究の目標

主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくりをするために、Chromebook の効果的な活用の在り方を究明する。

5 研究の仮説

1 単位時間に Chromebook の効果的な活用を位置づけ、次の二点から工夫していけば、主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくりができるであろう。

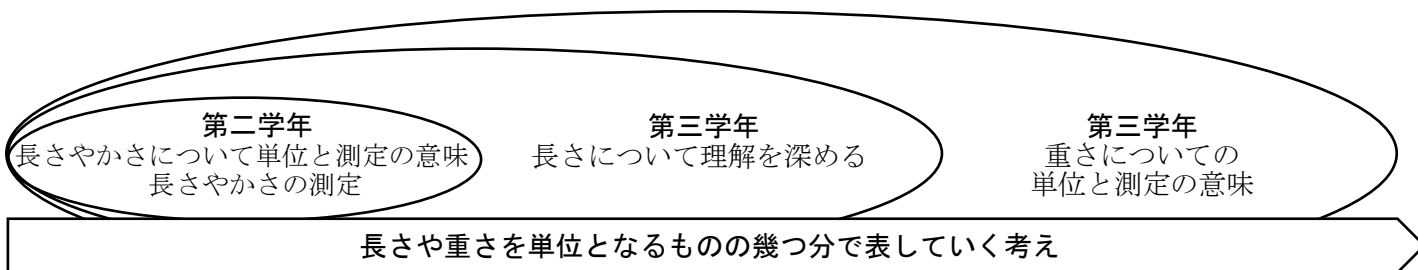
- 内容分析と教材選定
- 学びの基盤づくり

6 研究の具体的構想

(1) 内容分析と教材選定

Chromebook の効果的な活用をするためには、その時間で子ども達に何をとらえさせたいのか明らかにする必要があります。それに応じた教材を用意するようにします。これにより、Chromebook を使うことが目的にならないように、授業づくりを行っていきます。

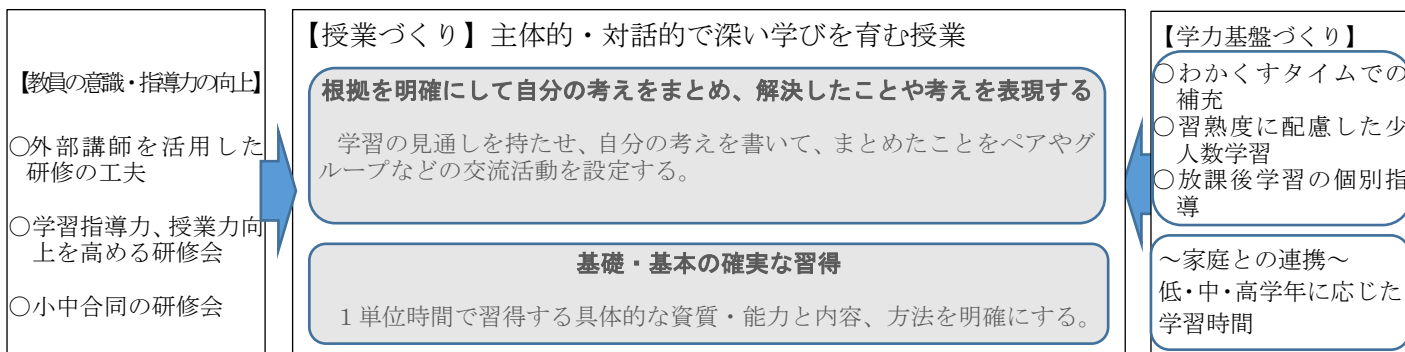
第三学年 算数科 「重さ」の単元で考えると次のようになります。



「重さ」の学習は測定領域の学習となります。この領域では、重さを学習する前に第二学年、第三学年で子ども達は長さやかさについて学習しています。こうした系統の学習で大切なことは、量を単位となるもののいくつ分で数値化して表すという考えです。そこで、重さの学習をする際に、長さの時は…と既習に着目させます。

(2) 学びの基盤づくり

下の図は、本校の学力向上プランの一部です。基礎・基本の確実な習得、根拠を明確にしてまとめ、解決したことや考えを表現する力を育成する授業づくりのために【教員の意識・指導力の向上】や【学力基盤づくり】をいう点を大切にしています。



このように一時間の問題解決学習の質を向上させることが、Chromebook を効果的に活用することにつながっていくと考えます。

7 研究の具体的構想

